



テレワークオフィス



中には、今でも浦河町に何度も訪れている方もいらっしゃると思います。このようなリピーター獲得に向けた事業展開が今後必要になると感じています。



馬とのふれあいによる癒し効果がある乗馬体験



乗馬公園内にあるテレワークスペース

浦河町のワーケーション事業は本格的に動き始めて間もないため、これから誘致に力を入れていくこととなります。バケーションメニューやポータルサイト掲載内容の充実、そのほか既存施設に不足しているものがないかなど、さまざまな課題はありますが、多くの方に訪れていただけをよう、取組を進めていきます。



現役世代をターゲットとした移住・定住を促進するために、平成25年度から平成26年度にかけてテレワークモニター事業を実施したことをきっかけに町の取組がはじまりました。モニター事業に参加いただいた方

▼取組のきっかけ

浦河町は、日高山脈のふもとに位置する一次産業が盛んで軽種馬産業が地域に根ざしている町です。町では自然風景、食事、気候、街並み、馬という5つの「癒し」をコンセプトにワーケーションの取組を進めています。

▼浦河町のワーケーション

馬や自然環境による「癒し」を活かしたワーケーションを推進

浦河町

うらかわ ちよう

共同実施地域の紹介

4

DATA



【人口】11,791人（令和3年7月現在）
【問い合わせ先】商工観光課 移住交流テレワーク誘致推進室
TEL:0146-26-9013
【関連WEBサイト】ワーケーション・テレワーク in北海道うらかわ町



QRコード読取▶

▼取組の特色

また、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い全国的にテレワークやワーケーションを取り入れる企業等が増えている状況を踏まえ、テレワークオフィスの整備や北海道型ワーケーション事業への参加など、関係人口の創出・拡大に向けた取組を進めています。

特にテレワークオフィスの整備に力を入れており、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、既存施設の改修を含め、現在町内6か所にワークスペースを整備しています。オフィスの延長のようなスペースだけではなく、厩舎の中や銭湯の2階、元畳店など、町の人や自然と交流ができる施設も設けていることが大きな特徴です。

うらかわ優駿ビレッジAERU内には競馬で活躍した功労馬と同じ厩舎でテレワークができるオフィスを整備しており、他にはない環境でのテレワークが体験ができるほか、乗馬やトレッキングも体験できます。

利用者の声

UR都市機構

小正 様

再現厩舎で馬の雰囲気・においに囲まれながらのワークは、とてもテレワークが上がりました。単にテレワークするのではなく、非日常を感じながら、様々なモノ・コトを吸収すること。当初の目的を達成しつつ、美味しい食事とバケーションを堪能し、町民の方々のホスピタリティで有意義なワーケーションを実施できました。



競走馬として活躍した功労馬と同じ空間で仕事ができる再現厩舎





上士幌町

地域をめぐる

バイオガスエネルギー

エネルギー地産地消のまちづくり

取組のきっかけ

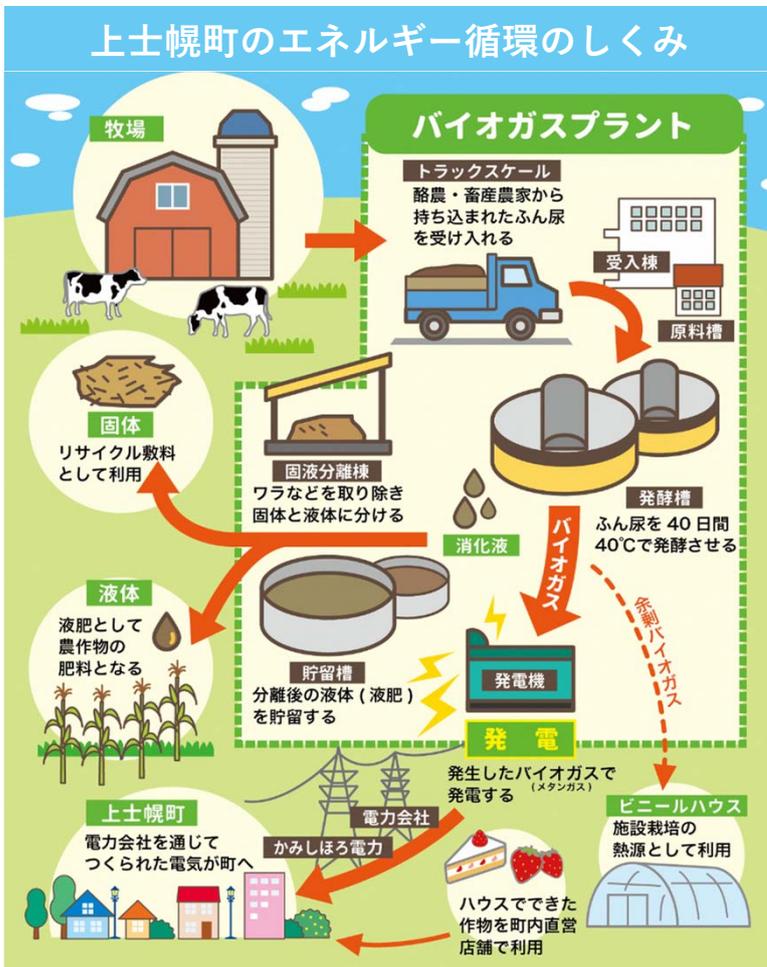
酪農・畜産が盛んな上士幌町では、人口約5000人に対し、牛の数が4万頭以上もいます。産業の拡大により飼育する牛の数が増えるにつれ、家畜ふん尿の適正な処理と利活用が検討課題となっていました。

そこで、町内の農業関係者で組織する上士幌町農業再生協議会の中で、家畜ふん尿処理の課題整理と調査研究を行った結果、平成29年度から町全域でバイオガスプラントの整備を進めることとなりました。

プラントの整備と同時に、発電された電力の地域内供給や余剰バイオガスによる熱源利活用を図るために、町や農協、北海道ガスなどの関係者で「エネルギー地産地消のまちづくり」の連携協定を結び、官民一体となってエネルギー循環のための取組を進めました。

上士幌町のエネルギー循環のしくみ

家畜のふん尿は、酪農・畜産農家によってバイオガスプラントに持ち込まれます。集められたふん尿を約40日間



40度で発酵させ、バイオガスを生成しバイオガス発電を行います。発電された電気は電力会社に売電され、地域の小売電気事業者によって、地域に供給されています。

さらに、発酵後に残る消化液は固体と液体に分け活用しています。固体は牛の寝ワラなどの代わりにリサイクル肥料として、液体は草地や畑地などに

撒く液肥として農地に還元し、再利用するなど、無駄のない仕組みを実現しています。

また連携して取り組んでいる有会社ドリームヒルでは、発電に必要な量以上のガスを発生した時に余剰となるバイオガスを熱源に利用してハウス施設園芸に取り組んでいます。

バイオガス発電とは、バイオガスプラントで微生物の力を使って生ゴミや家畜のふん尿からメタンガスを発生させることで発電するものです。今回は十勝地方の上士幌町で行われている畜産・バイオガス発電を利用し、地域内でエネルギーを循環させる取組について、町の方に詳しいお話を伺いました。

お話を伺った方
上士幌町 企画財政課
老月 隼士さん



エネルギーの
地産地消にむけて

バイオガスプラントの整備とまちに
適したエネルギー循環の仕組を協同で
検討するため、連携協定を結んだ5者
に、上士幌町の観光地域商社としてあ
らゆる観光関連事業を推進するまちづ
くり会社である株式会社karchを加
えた6者で「再生可能エネルギー地
産地消のまちづくりコンソーシアム」
を構成し、道の「エネルギー地産地消
事業化モデル支援事業」の補助を活用
し、取組を進めています。

補助を受けた5年間の事業では、バ
イオガスプラント1基の建設と余剰バ
イオガス熱利用設備の導入のほかに、
畜産業における効率的なエネルギー利
用のための畜産版エネルギーマネジメ
ントシステムの開発や、電力を地域に供給

再生可能エネルギー
地産地消のまちづくりコンソーシアム

- 上士幌町
- 上士幌町農業協同組合
- (株)上士幌町資源循環センター
- (有)ドリームヒル
- 北海道ガス(株)
- (株)karch



するための「地域エネルギー会社」の
設立と運用の検討や国内外の先進事例
視察等を行いました。

町内では民間の力を中心に循環型農
業の展開が図られており、バイオガス
プラントの整備・運営については、酪
農・畜産農家や農協等が出資し設立さ
れた株式会社上士幌町資源循環セン
ターが行い、町内農家の家畜ふん尿を
集め処理しています。

また、有限会社ドリームヒルでは、
自社でバイオガスプラントを整備し、
牧場で飼養している牛のふん尿を個別
に処理しています。現在では町有施設
を含め町内6カ所計7基のバイオガス
プラントが稼働しています。

運用がすすむバイオガスプラントで
すが、今後も持続的な運用をするため
に民間と連携し、取組を進めていく必
要があります。



居辺地区にある集中バイオガスプラント



ナイトイテラス
日本一広い1700haの敷地を持つ公営牧場で
あるナイトイ高原牧場が一望できる

地域で生まれた電力を
ふたたび地域へ

『かみしほろ電力』

地域で生まれた電気を地域に供給す
るため、小売電気事業者「かみしほろ
電力」が誕生しました。かみしほろ電
力の運営は、まちづくり会社である株
式会社karchが行うこととなり、
平成30年10月に小売電気事業者登録が
完了し、「かみしほろ電力」として地
域の電力供給に向けた取組を一つの事
業として運営することになりました。

一度電力会社に売電した
電力を、かみしほろ電力
が買い取り、地域内に供
給する仕組を構築してい
ます。

このことにより、地域
で生まれたエネルギーを
地域で使うことができる
ようになりました。



かみしほろ電力

Kamishihoro Energy



バイオガス電気を活用した
地域振興

平成31年2月より町内公共施設及び
農協施設の一部において、電力の供給
を開始しました。令和2年にオープン
した「道の駅かみしほろ」や「ナイト
イテラス」をはじめ、ほとんどの公共
施設に町内のバイオガスプラントから
生まれた電気を供給しています。

現在は、町内農家や事業者、一般住
宅への供給が可能となり、少しずつで
はありますが、町内の需要家への供給
を拡大しています。



電力以外の分野でも

地域での循環は電気以外の分野でも
徐々に進められています。連携してい
る有限会社ドリームヒルでは、余剰バ
イオガスを熱源に利用したビニールハ
ウスの施設園芸で育てたイチゴやブド
ウなどを、ジェラートやケーキに利用
し自社で販売しています。また、再生
可能エネルギー地産地消に関連するツ



余剰バイオガスを熱源としたハウス栽培のイチゴ

アーなどの実施につい
ても、SDGsの観点
を含めてかみしほろ電
力を運営する株式会社
karchにて検討し
ているところであり、
エネルギー以外の分野
においても、地域内の
循環の輪が広がりはじ
めています。



西興部村

エゾシカと共存するむらづくり

—— 地域資源としてのエゾシカ



道内初の猟区

北海道では、1980年代後半からエゾシカが爆発的に増加し、深刻な農業被害が社会問題化するとともに、狩猟者による人家や森林施業地近くでの発砲やシカの骨・皮・内臓等の残滓(ざんし)の放置、敷地への無断侵入などのトラブルが発生し、エゾシカの適正な保護管理が求められていました。

それらの問題に対応すべく、道ではエゾシカとの共存及び有効活用を図ることで地域経済の活性化につなげていき、適正な保護管理を行う「管理型狩猟システム(猟区※II有料狩猟場)」の導入を検討していました。

西興部村でもエゾシカをめぐるトラブルが問題となっていたことから、この管理型狩猟システムのモデル実施に向け平成15年に「NPO法人西興部村猟区管理協会」が村内関係者等により設立されました。

また、村では平成16年7月に道内で初となる猟区の許可を受け、西興部村全域を猟区として開猟しました。

協会のハンター育成活動により、村内

の登録者数は年々増加し、現在では20名のハンターが、エゾシカをはじめとする野生動物の適正な保護管理に取り組んでいます。

また、協会活動が適正に運営されるよう指導・監督する目的で「西興部村猟区管理運営委員会」を村、各関係機関、団体、学識経験者で設立し、毎年会議を開催しています。

※「猟区」とは「鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律」によって定められた

オホーツク地方の西興部村は、総面積の89%を森林が占める森に囲まれた村です。村では、有害鳥獣であるエゾシカを多方面に利用することで地域の活性化に役立てる取組を行っています。

制度で、入猟者数・入猟日・捕獲対象鳥獣の種類・捕獲数などについて管理者が独自の管理をすることができる有料の猟場です。



国道には猟区の看板が立つ

NPO法人 西興部村猟区管理協会の活動目的

- エゾシカを地域の自然資源と位置づけ狩猟によって個体数管理を行い、農林業被害を抑制すること
- ガイド付きの狩猟によって安全な狩猟を実現すること
- 入猟者の宿泊・飲食や地元ガイドの雇用により地域経済に寄与すること
- 狩猟技術を蓄積し、初心者のハンターの育成を行うこと



村内の小学生を対象に開催している自然教室



ガイドハンティングの様子



射撃場



鳥獣残滓等処理施設



鳥獣処理加工センター（ワイルドミート）



エゾ鹿皮なめし工房



特産品の「鹿夢缶」と鹿革加工品

シカの有効活用のために

NPO法人西興部村猟区管理協会では、エゾシカを地域の自然資源と位置づけており、狩猟のみならず、猟区内の生態観察ツアーなどのエコツアーの企画、捕獲したエゾシカの皮や角などの付加価値化にも取り組んでいます。

村としても関係団体との連携や体制構築を図りながら施設を整備するなど、地域が一体となって取り組んでおり、捕獲後に肉等を処理する「西興部村鳥獣処理加工センター（ワイルドミート）」や、不要となった内臓や骨などを処理する「西興部村鳥獣残滓等処理施設」、ハンターの技術向上のための「西興部村射撃場」、皮や角を利活用するための「エゾ鹿皮なめし工房」等の施設を、内閣府の地方創生拠点整備交付金や道の地域づくり総合交付金等を活用して整備しています。エコツアーや皮なめし工房には道内外からも多くの

また、村には、平成2年に村民の有志10名が集まって結成された「西興部村養鹿（ようろく）研究会」があり、村からの指定管理を受け「鹿牧場」の運営を行っています。鹿牧場は敷地面積約7haの鹿の牧場で平成7年度に2頭の飼育からはじめて現在では約40頭が飼育され、今では村の観光名所としても重要な施設となっています。

年に一度開催される鹿肉パーティーは村外の人にも人気であり、研究会が販売している鹿肉の缶詰「鹿夢缶（かむかん）」は村の特産品になっています。

観光資源としてのシカ



体験客が訪れており、捕獲したシカを有効活用するサイクルを確立することにより、エゾシカの利活用に関する先駆的な地域を目指しています。



観賞用として飼育されている「鹿牧場」エサやり体験も人気となっている。

※「シカ捕獲認証制度（DCC）」とはエゾシカ協会が認証団体となる認証制度で、2つのレベルが設けられており、野外実習や実技試験を西興部村猟区で実施しています。

エゾシカによる農林業被害や交通事故など多くの被害が未だに報告されています。被害を少なくするには、エゾシカの適正な保護管理が大切ですが、適正な個体数を維持する上では、毎年一定数の捕獲を行っていく必要があります。そのため、猟区管理協会では、ハンターセミナーやシカ捕獲認証制度（DCC）※などによる人材育成にも力を入れ、適切な捕獲、処理ができる捕獲者を育て、適正な個体数調整を行い、今後も「害獣」ではなく「地域の資源」としてエゾシカと共存していける環境をさらに目指し、エゾシカを活用した関係人口の拡大を図っていきます。

エゾシカとの共存

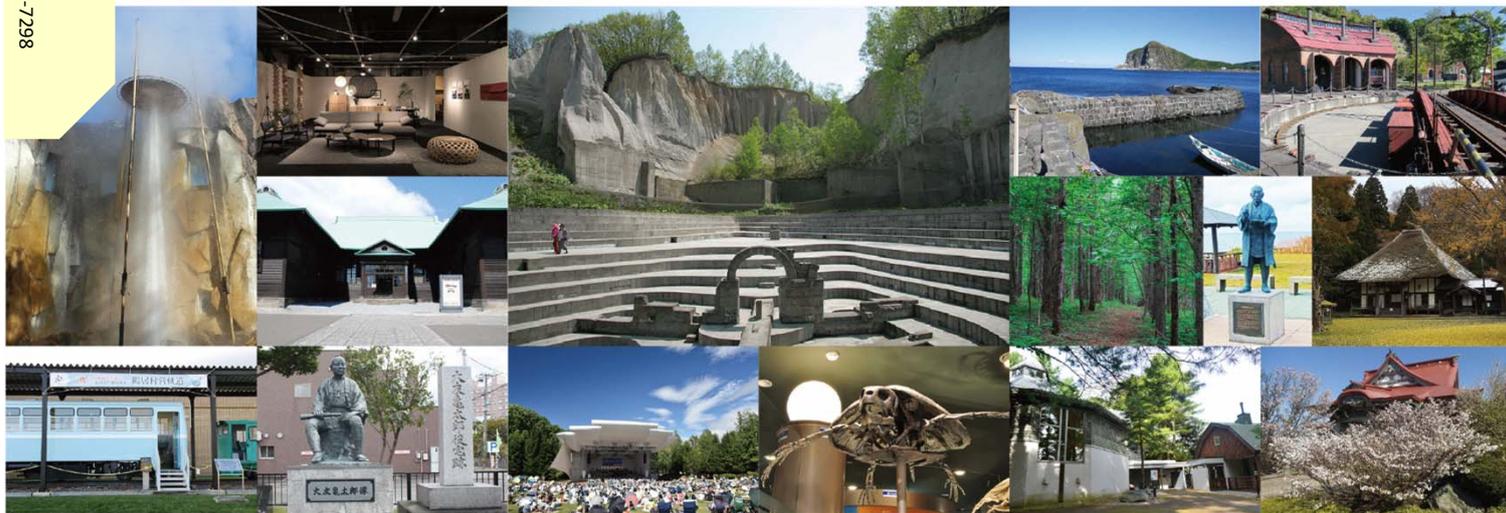


20周年
since 2001

北海道遺産は第1回選定から今年で20周年

北海道遺産第1回選定の2001年から20周年を迎える今年、更なる北海道遺産のPR、北海道遺産構想の普及啓発、北海道遺産地域の皆様との連携・交流が深まる活動を展開するため、20周年記念事業を実施しています。

- ◎20周年ロゴの使用
- ◎北海道遺産の日「どーいさんの日」(10月13日)の周知
- ◎20周年特設WEBページの設置
- ◎記念冊子・パンフレットの制作・・・など



北海道遺産 第4回選定

「北海道遺産」は、次の世代に引き継ぎたい北海道の大切な宝物です。第1回選定から20周年を機に、第4回選定の候補募集を10月13日(どーいさんの日)に開始し、2022年度に決定します。

20周年記念事業で地域の担い手との交流を広げ、「価値の向上とシェアリングヘリテージの理念を共有」を目標とした第4回選定を実施し、多くの人が地域遺産をともに育み、未来に繋げていく取組となることを目指します。

10月13日(水)
選定候補募集開始

- ◆新着情報はホームページやFacebookをご覧ください。
- ◆お問い合わせ先
NPO法人 北海道遺産協議会
TEL 011-218-2858 (平日10:00~17:00)
FAX 011-232-4918 E-Mail info@hokkaidoisan.org

北海道遺産
公式ホームページ



北海道遺産
Facebookページ



サポーター募集

北海道遺産協議会では、北海道遺産の取り組みを応援して下さるサポーターを募集しています。皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

種類	年会費	備考
個人	1口3,000円 (1口以上)	北海道遺産協議会の活動の趣旨に賛同し事業を支援する個人
団体	1口5,000円 (2口以上)	北海道遺産協議会の活動の趣旨に賛同し事業を支援する法人などの団体

会員特典

- (入会特典)ピンバッジ、ほっかいどう遺産WAON
- 会員証、年度特典(ポストカード、トートバッグ等)
- 情報誌やメールニュース等の情報発信
- HP等への法人・団体名、個人名(希望者)の掲載

2021年度の年度特典



「創る」バックナンバーは、「ほっかいどう応援団会議ポータルサイト」へ

QRコード読取で
バックナンバーへ

ほっかいどう応援団会議

検索

URL : <https://hkd-ouendankaigi.jp/info/tukuru.html>